

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 28 日現在

機関番号：17501

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20720187

研究課題名（和文） 広東山間地における清朝統治確立過程の研究

研究課題名（英文） Study on the Establishment Process of Qing Dynasty's Administration towards Guangdong Mountainous Region

研究代表者

甘利 弘樹 (AMARI HIROKI)

大分大学・教育福祉科学部・准教授

研究者番号：90398256

研究分野：中国明清史

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：東洋史、中国、広東、清朝、康熙期

1. 研究計画の概要

本研究は、康熙期における広東山間地の統治確立過程がいかなるものであったかを解決するものである。具体的には、第一に、康熙初頭における広東山間地統治の進行状況を、郷約・保甲を中心とした地方行政制度を通して解明する。第二に、三藩の乱時期に広東山間地で勃発した劉進忠の反清叛乱の分析を通して、広東山間地における統治体制の崩壊と再建の経緯を明らかにする。第三に、雍正期の地方行政政策を見通しつつ、三藩の乱後の広東山間地統治の実態を、郷約・保甲を中心とした地方行政制度を通して解明する。

2. 研究の進捗状況

本研究では、漢語・満洲語の档案、地方志を中心に史料の収集を行い、それらの史料をもとに、康熙期における広東山間地の統治確立過程を追究してきた。当該史料の活用については、執務の関係等により調査及び分析の時間が制約されているが、別途郷約・保甲に関する地方史料及び最新の公刊史料によって補っている。これまでの成果として、日本華僑華人学会大会 2009 において「清朝中期の嘉応州について」と題する発表を行った。本発表では、清朝中期における嘉応州の行政上における変遷を追究することによって、その時代的・地域的意義を明らかにし、康熙前半期における広東山間地統治が、清代史全体の中でいかに位置づけられるかを確認した。また研究論文「從『密本檔』看順治 10 年的華南統治政策」（『輔仁歴史學報』第 25 期、2011 年刊行予定）では、順治期における清朝の華南統治政策を、主に満洲語档案に基づ

きつつ検討し、康熙期における清朝の広東山間地統治が、それ以前の統治といかなる連続性・不連続性を持ったものであったかに関する知見を得ることができた。以上の成果発表に続いて、三藩の乱の時期に広東山間地において政治的混乱が安定へと向かう過程を解明することを目指し、研究を進めてきた。特に当該時期に同地で勃発した清朝武官劉進忠の反清叛乱に関して、その叛乱が清朝の広東山間地統治に大きなダメージを与えるとともに、三藩の乱の終結に伴う安定の中で、新たな秩序を生み出す契機となったことを見出した。

3. 現在までの達成度

②おむね順調に進展している。

本研究は、当初の研究計画において、康熙期における広東山間地の統治確立過程の位置づけを解明するという課題を設定しているが、この課題に対して、康熙期前後における統治過程を分析することを通して、解決に向かい順調に研究が進んでいると判断できる。

4. 今後の研究の推進方策

今後は、上記の達成状況をふまえて、史資料の調査・分析が遅れている部分を克服することによって、康熙期における広東山間地の統治確立過程の本質に迫る研究成果をまとめ、研究課題の総括を行う。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

- ① 甘利弘樹 「從『密本檔』看順治 10 年的華南統治政策」 『輔仁歷史學報』 第 25 期、2011 年刊行予定（印刷中）、査読有

〔学会発表〕（計 1 件）

- ① 甘利弘樹 「清朝中期の嘉応州について」
日本華僑華人学会大会 2009、2009 年 11 月 15 日、大阪大学中之島センター

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

- 出願状況（計 0 件）
○ 取得状況（計 0 件）

〔その他〕